

当センターを受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名（研究番号）	回復期脳卒中患者におけるリハビリテーション量とADL改善の関連性 ～多施設共同研究～（医療3-1）
当院の研究責任者 （所属）	吉村 友宏（よしむら ともひろ） （リハビリテーション治療部 成人療法室 第二作業療法科）
他の研究機関および 各施設の研究責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ JCHO 東京新宿メディカルセンター 理学療法士 木村 鷹介 ・ 社会医療法人財団 大和会 武蔵村山病院リハビリテーション室 理学療法士 田中 周 ・ 医療法人社団 愛友会 津田沼中央総合病院 主任理学療法士 久住 治彦 ・ 国家公務共済組合連合会 虎の門病院分院 リハビリテーション部 理学療法士 山本 晟矢 ・ 医療法人社団 健育会 湘南慶育病院 リハビリテーション部 理学療法士 三枝 洋喜 ・ 筑波大学 人間系 教授 山田 実
本研究の目的	多くの脳卒中を呈した患者様は、運動麻痺や高次脳機能障害などの後遺症によって、日常生活活動（activities of daily living; ADL）に何らかの介助を要する状態となります。ADL改善と関連し得る要因の一つに、リハビリテーション量が挙げられます。近年、高齢化や再発など、刻々と患者像が変化しています。このため、過去の先行研究と同様の結果が得られるかを改めて検証することは、患者様のADL改善を促すためのリハプログラムを設計する上で重要と考えています。本研究の目的は、①回復期脳卒中患者様におけるADL改善とリハビリテーション量（単位数）の関連性を明らかにすること。②年齢と重症度に応じて患者様を層別化し、どのような患者様に対してリハビリテーション量を増やすことが有効であるかを明らかにすること。としています。
調査データ 該当期間	2016年4月1日から2020年12月31日
研究の方法 （使用する試料等）	<p>○対象の方々</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 上記期間に、当センター回復期病棟から退院された方。 2) 年齢18歳～100歳 <p>○利用する情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当センターでの診療情報。
試料/情報の 他の研究機関へ の提供及び提供方法	他の機関への試料・情報の提供は研究責任者のみが知りうる通し番号に置き換え個人が誰であるか判らないようにした上で提供いたします。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除致します。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者様個人が特定される情報は利用しません。
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：043-291-1831（千葉県千葉リハビリテーションセンター代表） 担当者：成人療法室 第二作業療法科 吉村 友宏（よしむら ともひろ）
備考	